

G 2 部 会 の 研 究

主 題

基礎・基本の確実な定着を図るための指導法の改善

1 育てたい力

関心・意欲・態度	数学的思考
- 算数の楽しさやよさを感じながら、進んで学習に取り組むことができる。 - 既習事項を日常生活の課題解決に役立てることができる。	- 見通しをもって課題を考えることができる。 - 複数の解決方法を考えることができる。 - 自分の考えを筋道立てて説明することができる。
表現・処理	知識・理解
- 計算、作図、測定、表やグラフ化などの作業が丁寧で正確にできる。 - 正確に問題を処理することができる。 - 既習事項を生かして、問題を解くことができる。	- 数量や図形について豊かな感覚をもつことができる。 - 意味や性質を確実に理解できる。 - 学習事項を定着させることができる。

2 主題に迫る手だて

(1) 指導計画の工夫

①グループの実態に応じた指導計画の作成

- 学習事項を習得する力はあるものの確実に定着していない児童が多いという本グループの傾向を踏まえ、小単元が終わるごとに習熟の時間を設定し、細かなステップで学習状況を把握し確実に定着できるようにする。

②学び直しの時間の設定

- 単元終了後に個に応じて発展学習や補充学習に取り組む時間を設定し、学習内容の定着を図る。

(2) 指導方法及び指導過程の工夫

①課題提示の工夫

- 教科書をベースとして課題を提示する。
- 色分け、数値変換、単位変換等の工夫により、児童が課題をとらえやすいようにする。

②自力解決に導くための工夫

- 学びのタイプに応じてヒントカードを与えたり操作活動をさせたりして、数学的な思考へと導き、自力解決へとつなげていく。
- 解決するための時間を十分に確保する。
- 理解度や処理速度の差に応じたプリントを工夫し、一人一人の学びを保証していく。
- ノートの取り方を身につけさせることで、筋道を立てて考える力や正確に問題を処理する力の素地を養う。(授業の展開が視覚的にとらえられるノート)
- 自分の考えをノートにまとめることで、学び合いにもつなげていけるようにする。(自分の学びを振り返ることができるノート)
- 見直しの観点を確認させ、ケアレスミスに自分で気づいて修正する習慣や力を身につけさせていく。

③児童の考えを生かした学び合いの工夫

- 「学び合い」を段階的に押さえ、互いの考え方の共有化を図れるようにする。
 - *自分の考えが書ける。
 - *自分の考えが発表できる。(友達の考えが聞ける。)
 - *友達の考えと自分の考えのどこがどのように違うかが分かる。
 - *発表を聞いて、感想・意見・質問が言える。

(3) 評価の工夫

①一人一人の考えや学習状況を見取るための工夫

- 座席表を使い、個々の理解度や問題解決の方法を把握し、個に応じた支援を行う。

②学びの振り返り

- 授業後に、気づいたこと、分かったことを含め感想を書かせて、自分の学びの振り返りをさせ、次の時間へつなげていけるようにする。
- プリントやテスト、ノート、発表について記録し累積することで、正確に問題を処理する力や定着状況を評価する。

③学習チェックカードの活用

- 単元終了後に児童に学習状況を自己評価させる。

G 2 部会 研究の成果と課題（17年度）

1. 指導計画の工夫について

（1）グループの実態に応じた指導計画の作成

○小単元終了後の習熟の時間の設定は、基礎基本を定着させる上で有効であった。

●設定した習熟の時間に限らず、前時の学習内容を導入で復習していくことが必要な場合が多いので、適宜復習タイムを取り入れていくようにしたい。

（2）学び直しの時間の設定

○一人一人の理解度に応じた学習内容を提供したことで、つまずきの見られる児童への個別指導を充実させることができた。また、自力解決ができた児童には、学習への関心・意欲をさらに高めることができた。

●教科書をベースとした学び直しはできた。しかし、単元によっては、必ずしも児童の実態に応じた学び直しのための指導時数確保やプリントの用意ができないことがあった。プラスアルファの学び直しが必要な単元をしっかりと押さえておきたい。

2. 指導方法及び指導過程の工夫について

（1）課題提示の工夫

○与えた課題から必要な条件を整理して提示したことが、確実な理解につながった。

●教科書をベースとして課題を提示することを前提としたが、提示する数値は、児童の実態に応じてその都度検討が必要となることもあった。

（2）自力解決に導くための工夫

○ノートの取り方を身に付けさせることで、筋道を立てて考える力が向上してきた。

○自分の考えをノートにまとめる機会を多く取り入れて発表し合うことで、グループの中での学び合いができた。

○自分の考えを説明する際の段階を踏んだ言葉の使い方を指導したことが、学び合いを充実させるのに役立った。

●ケアレスミスが多く、自分の誤りに気付けないでいる児童が多い。今後も見直しの観点（検算の方法）の確認と、正確に計算できるようになるための計算量の確保が必要である。

（3）児童の考えを生かした学び合いの工夫

○時間を確保することで、自分の考えをノートにまとめる力が向上した。自分の考えと友達の考えの違いや、友達の考えの良さに気付けるようになってきた。

●まだ自分の考えがうまくまとめられない児童が見られるので、児童の思考パターンを把握し、実態に応じた有効な支援を考える必要がある。

3. 評価の工夫について

（1）一人一人の考えや学習状況を見取るための工夫

○児童の思考パターンをいくつか予測しておき、机間指導をしながらそのパターン別に児童の名前を記入する方法は、有効であった。

（2）学びの振り返り

○学習のまとめとして気付いたことや分かったことを書かせることで、学習内容を整理する力が向上し、次の時間への学習意欲を喚起させることができた。

（3）学習チェックカードの活用

●十分に活用しきれなかった。ノートに「自分の考え」や「感想」を書く活動と重複するのではないか。教師側もノートに目を通すことでチェックカードがなくても十分評価できたのではないか。